

常設展示室のヒミツ

常設展示室のヒミツ



同じ作品が展示されているかというところは実はそうではありません。コレクションをいつも展示している部屋という意味であって、展示替えをして作品を入れ替えているのです。

というのも、郡山市立美術館のコレクションの中には水彩画や版画などに紙に描かれた作品も多く、こうした紙の作品は光の影響を受けやすく、強い光に長時間さらされると変色してしまつたなど保存上の問題があります。作品にとつては、光を当てずじまつたままにしておくのがもっともよいという極論がありますが、それでは作品を見ていただくことができなため、照度を抑えたうえ長時間の展示を避ける、ということがあります。

そこで当館では3か月ごとに展示替えをおこなつて、紙の作品は年に1期だけの展示に限るようになっています。また他館への貸出などがあつた場合は、その年は常設で展示しない作品もあります。

油彩画の作品は照度を調節することによって、収蔵庫にしまわずに展示している作品もあります。そういった作品も、いつでも同じ位置にかけたままになっているわけではありません。展示室ごとにその期間のテーマを設け、作品をリストアップし展示の順序を決めるので、ひとつの作品でもテーマや一緒に並ぶ作品によって、展示される位置が変わることもあるのです。

たとえば常設1の部屋に展示される作品の中で、バーン・ジョーンズの「フローフ」という作品。当館のコレクションを代表するひとつ

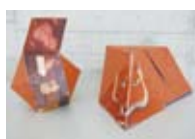


つです。この作品は他館からの貸出の依頼をいただいても、これまでお断りすることが多く、開館以来ほとんど展示されています。いろいろな機会に当館が紹介される際、代表作として写真を掲載していただくことも多いので、わざわざ遠方からいらした来館者がっかりされたりすることのないよう、つねに展示しておきたいと考えているからです。

とはいえこの作品も、展示室の中で定位置があるわけではありません。展示するテーマ



展示風景とおびからくり模型（左）
模型の作成には、造形作家・斎藤真紀氏のご協力をいただきました。



によって違う位置に別の作品と並ぶことによって、あらたな魅力を発見していただきたいと思います。

当館では4つある展示室を5つのパートに分けて使うことが多いのですが、そのパートごとに担当者を決めて、担当者が展示のテーマと作品の選定をおこなっています。テーマは同じ時期に開催される企画展を考慮して選ぶことが多く、企画展とあわせて見ていただくとより充実した内容になるように考えられています。

たとえば今年度第2期（7月22日～10月17日）では夏の企画展「ピエトリクス・ポター展」と関連させて、展示室1は、イギリスの豊かな自然」というテーマで、ポターが後半生暮らし、作品の舞台ともなった湖水地方を中心にイギリスの風景画を紹介しました。また、展示室2は「いきものへの眼差し」というテーマで、日本の近代美術の中から動物をモチーフにした彫刻や絵画を展示しました。

第3期（10月20日～12月26日）展示室4では、「北斎漫画展」とあわせて楽しんでいただけるよう「北斎漫画と工芸デザイン」と題し



展示替え作業 大きくて重い作品は数人で展示します。

みなさんは常設展示室に行かれたことがありませんか？郡山市では小学校4年生のときに「郷土を学ぶ体験学習」という授業で美術館を見学する学校が多いのですが、初めて美術館を訪れたという生徒さんも意外と多く、また「前に家族と来たことがある」と答えても、常設展示室まで見たことがある子ども達はごくわずかのようです。

「常設」ということは常に設置されているといった意味ですが、常設展示室にはいつも